

日吉台地下壕保存の会会報

第96号

日吉台地下壕保存の会

2010年度総会のお知らせ

2010年度本会総会のお知らせをいたします。日吉台地下壕をはじめとする戦争遺跡の歴史的、社会的、文化的価値の大きさが、その保存と活用へ向けて、人と人を結びつけ、20数年以上にわたる市民の活動を粘り強く支え続けてきました。その間日吉台地下壕の保存・活用そのものは大きな決定はみていませんが、活動への理解は深まり、昨年は学術調査としては初めて航空本部地下壕の入り口部分の発掘調査が行われ、多くの成果と反響をみたところです。本年度総会に先立って昨年の戦争遺跡保存全国ネット松本大会において行われたこの報告を総会の場において更に深く検証したいと思います。多くの会員の方々のご来場をお待ちしております。

記

○日時 2010年5月29日（土）午後1：00より

○場所 慶應義塾大学日吉キャンパス藤山記念館

○内容 講演 1：00～3：00

テーマ「日吉台まむし谷（軍令部第三部等地下壕）の発掘調査と保存・活用の意義」

（1）発掘調査の成果報告 山田仁和

（吾妻考古学研究所主任研究員 日本考古学研究員、本会会員）

（2）保存活用の意義 新井揆博（日吉台地下壕保存の会副会長）

○総会 3：15～3：45

総会議事内容

- ・2009年度活動報告
- ・2009年度会計報告
- ・2010年度活動方針案
- ・2010年度予算案
- ・その他

※終了後懇親会を持ちたいと思います。ご予定ください。

第14回戦争遺跡保存 全国シンポジウム南風原大会要項

一緒に参加しませんか

昨年の長野県松本市での大会から早くも次の大会のご案内をお送りするときとなりました。昨年は会として慶應出身の特攻学徒上原良司の安曇野の実家を訪ねる旅などを行いつつ、日吉台地下壕航空本部の発掘調査や日吉の空襲などについて新しい活動の報告を行い、大きな成果を上げることができました。今年は例年より少し早く6月ですが12年前の第2回開催場所であった沖縄県の南風原（はえばる）町にて行われます。この十数年で戦争遺跡保存の全国ネットワークは確実に広がっています。

本会はこのシンポジウムの呼びかけ団体の一つとして当初から欠かさず参加してまいりました。南国沖縄は青海原、リゾートの地であると同時にアジア太平洋戦争激戦の地、オプションのフィールド・ワークでも自分の目で戦争の惨禍を実感できるに違いありません。今年も皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

記

1. 趣旨

沖縄戦から65年目の沖縄。沖縄戦体験者が人口の2割を切り、体験者による沖縄戦継承が難しくなっている。そこで近年ヒトからモノで戦争を語ることが重要視されている。モノの中でも戦争遺跡が「戦争の生き証人」として、体験者に代わる「語り部」として注目され、その保存・活用が今日的な課題になっている。

こうした動きの中、南風原町は1990年全国ではじめて沖縄陸軍病院南風原壕群を町文化財指定し、2007年には20号群を公開した。同年には南風原平和ガイドの会が発足し、2009年には南風原文化センターが新設開館した。これらの取り組みは戦争遺跡保存活用の先駆的な役割を果たしている。さらに南風原町は1998年に「第2回戦争遺跡保存全国シンポジウム」を開催した。そして12年たった今年、あらためて本大会「第14回戦争遺跡保存全国シンポジウム」を開催する。

沖縄平和ネットワークは結成以来、戦争遺跡保存活用を積極的に進めるとともに県内「平和ガイド」の結成にはずみを与えた。また戦争遺跡保存全国ネットワークも戦争遺跡保存活用の全国ネットワークをつくり、現在49団体が加盟している。こうした取り組みの結果、現在全国の指定文化財及び登録文化財は160件、県内でも13件と年々増加している。このことは戦争遺跡の価値が社会的に認知されつつあることをあらわしている。反面県内をはじめ全国各地で戦争遺跡が破壊されることも見逃すことはできない。

本大会は○南風原町の戦争遺跡に対する取り組みや沖縄平和ネットワークの活動、さらに県内「平和ガイド」の活動を県内外に発信する、○全国の戦争遺跡保存団体から学び、交流を深める、○戦争遺跡の文化財指定の促進と戦争遺跡保存活用の理念と方法の確立を図る、○戦争遺跡を通して次世代へ伝える取り組みの更なる発展を図ることを目的に開催する。

2. 大会テーマ 『ヒトからモノへ 戦争遺跡の保存・活用・次世代への継承を考える』

3. 主催 南風原町・戦争遺跡保存全国ネットワーク・沖縄平和ネットワーク・南風原平和ガイドの会

○現地事務局（南風原文化センター） 沖縄県南風原町字喜屋武257番地

Tel 098-889-7399 Fax 098-889-0529

4. 会場 南風原町中央公民館ホール 他

5. 日程 2010年6月19日(土)～6月21日(月)

6月19日(土) 9:00～12:00 開会集会 シンポジウム

13:00～16:30 分科会

17:30～20:30 交流会 会費2,000円

6月20日(日) 9:00～10:00 全国ネット総会

10:30～15:00 分科会

15:30～17:00 閉会集会

17:00～18:30 オプション沖縄陸軍病院南風原壕めぐり

6月14日～23日 南風原文化センター企画展「全国戦争遺跡写真展」

6. 参加費(資料代)

一般 一日目500円、二日目500円(二日で1,000円)

学生 一日目300円、二日目200円(二日で500円)

高校生以下 無料

7. シンポジウム テーマ「戦争遺跡の保存・活用の現状と課題」

分科会 第一分科会「保存運動の現状と課題」・戦跡とは何かの視点も含めて

第二分科会「調査の方法と整備の技術」

第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

・ガイド活動を中心に県内外の交流の場とする

8. オプション 戦争遺跡を歩く

6月21日(月) ジャンボタクシーで沖縄の戦跡を歩く

参加費 3,500円(北部コースのみ4,500円)

(1) 北部コース 宜野座博物館 辺野古・大浦湾 武田菴草園 田井等収容所

多野岳 愛楽園 登野喜屋住民虐殺現場 御真影奉御壕

(2) 中部コース(読谷を中心) 首里第32軍司令部壕 栄橋(嘉手納高校脇)

嘉手納基地 座喜味城跡(昼食) 読谷飛行場跡掩体壕 忠魂碑 読谷村役場と憲法9条碑 シムクガマ チビチリガマ 特攻艇秘匿壕群

(3) 中部コース(沖縄市 具志川など)

嘉数高台 白比川沿特攻艇秘匿壕群 北谷上陸米軍地 忠魂碑・奉安殿 美里「集団自決」跡地(昼食) ヌチシヌジガマ 石川収容所跡・宮森小学校ジェット機墜落地現場 具志川グスク「集団自決」碑 中城湾沿いの銃眼 石川収容所跡 戦後引揚者上陸碑

(4) 浦添・西原・那覇コース

浦添グスク跡の戦跡 西原陣地壕 小波津家の弾痕跡(昼食) 県庁壕、真嘉比壕 シュガーローフ 城岳の壕 海軍壕

(5) ひめゆりコース

安里駅(師範学校女子部・県立一女校校舎) 首里第32軍司令部壕 アブチラガマ 与座ガー 平和の礎(昼食) 第一外科壕 第三外科壕荒崎海岸

(6) 白梅・ずいせん・でいご学徒コース

松山公園(県立第二高女学校跡) ナゲーラ壕 ヌヌマチ・ガラビガマ 八重瀬岳第一野戦病院跡、白梅の塔 米須の壕 でいごの塔 平和の礎

(7) 男子学徒コース

首里城周辺(師範男子、工業健児、一中会館) 摩文仁(工業健児の塔、韓国人慰靈塔、第32軍司令部壕、検事の塔と下の海岸) 魂魄の塔

(8) 住民と南部避難ー1

旭丘公園(小桜の塔・対馬丸記念館) 嘉数高台 潮平権現壕 魂魄の塔 平和の礎・沖縄県平和資料館・韓国人慰靈塔

(9) 住民と南部避難—2

嘉数高台 前川民間防空壕群 ガラビガマ 八重瀬岳上 真恵平(南北の塔)
真壁(満華の塔) 轟の壕 喜屋武岬下の銃眼 マヤーガマ
魂魄の塔 平和の礎 沖縄県平和資料館・韓国人慰靈塔

(10) 碑文コース

嘉数高台 小桜の塔と周辺 海軍壕 南北の塔 韓国人慰靈塔 摩文
仁の丘 魂魄の塔 ひめゆりの塔 白梅の塔

(11) 那覇半日コース(14時文化センター着予定)

旭丘公園 (小桜の塔・対馬丸記念館) 県庁壕、真嘉比壕跡

(12) ひめゆり学徒半日コース(14時文化センター着予定)

アブチラガマ 与座ガー 平和の礎 第一外科壕 第三外科壕 荒崎
海岸

(13) 白梅・ずいせん・でいご学徒半日コース(14時文化センター着予定)

ナゲーラ壕 八重瀬岳第一野戦病院跡 ヌヌマチ・ガラビガマ 白
梅の塔 でいごの塔

※詳細は保存の会運営委員までお尋ねください。要項・参加申し込み方法などお知らせいたします。(亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 Tel 045-561-2758)

※飛行機、ホテル等の申し込みは参加者が各自で行っていただくことになっております。



地域の歴史を学び、戦争遺跡を案内する市民ボランティアガイドの養成をめざす本講座は下記の日程で第3回まで行われました。今回参加者は7名と小人数ですが、私たち現役ガイド・運営委員と共に学習を進めています。

- ① 1月16日 「近代日本の戦争を問い直す」「日吉の戦争遺跡の特徴とガイドの心得」
- ② 2月6日 「日吉の戦争遺跡を歩く」「日吉の戦争遺跡の特徴とガイドの心得Ⅱ」
- ③ 3月20日 「特攻隊員・上原良司が問いかけるもの」「連合艦隊司令部の作戦」「戦争遺跡が市民に伝えるもの」

4月17日、1時から第4回目としてフィールドワーク「日吉キャンパスの丘を歩く」を実施予定です。どなたでも参加できます。この会報がお手元に届くのがギリギリの日程ですが、ご希望の方は来往舎前でお待ちしています。

第1回資料

近代日本の戦争を問い合わせる

4月17日日吉キャンパス
の丘を歩きます

渡辺賢二

1. 戦争を問い合わせる視点

- 1) 民衆を権力者が戦争に動員する時の方法を批判する。
・「だまし」「ごまかし」「おどし」「ならし」の四つの「し」をくみあわせて民衆を「喜んで」「死」にむかわせようとする。
- 2) 「戦争」に対する国際法の深化をふまえて歴史を見る。
- 3) 近代日本がおこなった戦争の総括をアジアからの視点でおこなう。
- 4) 未来の平和共同体創造のための視点。

2. 四つの「し」がもたらしたもの

1) 近代国家の場合。

① 「だまし」の方法。

- ・「天皇は神」…勤皇の志士たちは「天皇をタマ」として「ギョク」にすると考えたのが原点。民衆を「天皇の赤子」の思想。

② 「ごまかし」の方法。

- ・神武天皇陵の偽造、紀元節の設置など。

③ 「おどし」の方法。

- ・大逆罪などを設定し「国体の変革」を禁じる治安維持法体制。

④ 「ならし」の方法。

- ・教育・文化活動を通じてマインドコントロール。

2) 軍隊の場合。

① 「だまし」の方法。

- ・「自衛のための戦争」「アジアを解放させる戦争」「八紘一宇」。
- ・「靖国の思想」と「特攻隊」

② 「ごまかし」の方法。

- ・靖国神社の儀式や遊就館の展示。

③ 「おどし」の方法。

- ・「軍人勅諭」と「戦陣訓」。

④ 「ならし」の方法。

- ・「九軍神」の宣伝。

3. 戦時国際法から戦争違法化の時代へ

1) 第一回ハーグ平和会議（1899年）

- ・「国際紛争平和的処理条約」締結。…戦時国際法の出発。

2) 20世紀は「戦争の時代」。

- ・植民地再分割をめぐる対立と戦争。

3) 第一次世界大戦による転換。

① 第一次世界大戦の終わり方。

- ・ロシア革命時レーニンによる「民族自決権」の主張。
- ・アメリカウイルソン大統領の14ヶ条声明。

② 国際連盟の誕生と不戦条約。

- ・1920年、国際連盟の誕生。
- ・1925年、ジュネーブ条約で毒ガスの使用などが禁じられた。

③ 不戦条約。

- ・1928年「國家の政策手段として戦争を禁じる」ことが確認。…戦争違法化時代へ。
- ・「勢力均衡政策」時代から「集団安全保障政策」時代へ。

4) 国際連合成立過程と日本。

① 1942年1月、(The Unaited Nations) という国際連合の母体がつくられた。

② 1944年8月から10月にダンバートン・オークス会議が開かれ、国際連合草案が決定された。

③ そのころ、日本では本土決戦準備がなされ、松代大本営建設や連合艦隊日吉台地下壕建設がおこなわれていた。

④ 1945年4月から6月までサンフランシスコ会議が開かれ50ヶ国が参加し、国際連合が成立した。



講師 新井揆博氏(左) 渡辺賢二氏(右)

⑤その頃、日吉台地下壕からは特攻命令が出され、沖縄戦も激化していた。

5) 国際連合憲章の特徴

- ①「武力による威嚇」「武力の行使」の禁止。
- ②冷戦体制と国連安全保障理事会の問題点。

4. アジアの視点から戦争を総括する

- 1) 日露戦争が「自衛戦争」か?…「坂の上の雲」の問題点。
 - ・韓国皇后虐殺事件、旅順虐殺事件などの無視。
 - ・韓国併合100年をどう考えるのか。
- 2) アジア太平洋戦争史観と大東亜戦争史観の相違。
 - ・横浜で採択された「新しい歴史教科書」の問題点。
- 3) 沖縄戦や本土決戦体制から見えてくるもの。
 - ・軍隊は何を守ろうとしたのか。日本の軍事思想の歪みを検証。

5. 未来に平和共同体を創造する視点

- ①核兵器や戦争の時代は「夢」でしかないのか?
 - ・かつて大江健三郎は「核戦争を否定できなければ、小説は書けない。なぜならば、人類がいない時を創造するわけにはいかないから。」
- ②「戦争を否定し平和創造」の立場からの戦争遺跡の保存と活用を。

日吉の戦争遺跡の特長とガイドの心得（I）

新井揆博

1 私たちはなぜ戦争遺跡をガイドするか

平和への伝承は必然的に「人から物へ」移行する

アジア太平洋戦争の敗戦から65年、あの戦争で東アジアの人だけで2000万人が亡くなり、日本人310万人が亡くなっているといわれている。その多くは弱い老人・女性・子どもたちであった。陸海軍の死没者（1941年12月以降）は、陸軍146万6200人、海軍46万6100人を数える（原・安岡編『日本陸海軍事典』下）。

戦争の語り部である直接戦争体験者が年々少なくなっていく（69歳以上の国民約20%）なかで、戦争遺跡もしだいに風化するとともに開発等による人為的破壊も進んでいている。戦争の傷跡を残すこの戦争遺跡は、今や「戦争の実相を知る」貴重な①歴史研究の資料、②歴史教育・生涯学習の教材、③平和学習の物証・平和の語り部である。ここに来て、20世紀の戦争と平和の伝承は「人から物へ」移らざるを得ない。すなわち戦争遺跡は「戦争遺跡をして戦争の実相を語らせる」貴重な存在なのだ。

私たちは、21世紀を暴力や戦争がない時代にするため、戦争遺跡に戦争を語らせることが求められている。現在、全国に十数万の戦争遺跡が存在すといわれているが、自然的・意図的破壊の進行もあり、この点でも十分目配りした保存運動の取り組みもあわせて必要である。

保存運動の高まりは戦争文化財として結実

ここ十年、全国の戦争遺跡保存運動の高まりは、国県市町村をして多くの戦争遺跡を文化財指定として結実させている。

戦争文化財 2009年7月現在 157件（前年比11件増）

国指定文化財13件、国登録文化財57件、県指定7件、市町村指定67件、
市区町村登録文化財11件、道遺産・市民文化資産3件

（戦争遺跡保存全国ネットワーク調べ）

*神奈川県の場合

横須賀市海軍軍港水道走水水源地煉瓦造貯水池（国登録文化財）

横須賀市海軍軍港水道走水水源地鉄筋コンクリート造浄水池（国登録文化財）

横須賀市逸見浄水場ベンチュリーメーター室（国登録文化財）

横須賀市逸見浄水場配水地入口2棟（国登録文化財）
 横須賀市逸見浄水場緩速ろ過地調整室4棟（国登録文化財）
 横須賀市旧横須賀重砲兵連隊營門（市民文化資産）
 横須賀市逸見波止場衛門（市民文化資産）
 相模原市陸軍通信学校将校集会所（市区町村登録文化財）
 相模原市陸軍通信学校将校庭園（市区町村登録文化財＜名称＞）
 （戦争遺跡保存全国ネットワーク調べ）

* 文化庁と戦争遺跡詳細調査51件

2002年、文化庁は全国分布544件のうち51件を詳細調査の対象として選び調査を進めてきた。そして今年度中に報告書が出される予定になっている。日吉台地下壕もその中に入っている。神奈川県にある詳細調査対象遺跡は次の通り、

日吉台地下壕	横浜市港北区	昭和19年
陸軍第九技術研究所（登戸研究所）	川崎市多摩区	昭和14年
旧横須賀鎮守府関係遺跡	横須賀市	大正15年
猿島砲台	横須賀市	明治
花立保墨砲台	横須賀市	明治27年
三軒家砲台	横須賀市	明治29年
腰越保墨砲台	横須賀市	明治29年
観音崎砲台第一・第二火薬庫	横須賀市	明治17年
観音崎砲台火具庫	横須賀市	明治27年
観音崎北門第一・第二・第三砲台	横須賀市	明治17年
相模野海軍航空隊（厚木基地）	綾瀬市・大和市	昭和18年

戦争遺跡にはどんなものがあるか

◎日本の戦争遺跡はそれらの構造物・遺構・跡地が果たした歴史的役割から、次の八種類に区分されている。

- ① 政治・行政関係 陸軍省・海軍省など中央官庁、大本営、師団司令部など。
 - ② 軍事防衛関係 軍事的な要塞（保墨・砲台）、高射砲陣地、陸軍・海軍飛行場など。
 - ③ 生産関係 陸軍造兵廠、海軍工廠、航空機製作工場などの軍需工場など。
 - ④ 戦闘地・戦場関係 沖縄諸島、硫黄島などの戦闘が行われた地域。空襲・原爆被災地、など。
 - ⑤ 居住地関係 外国人強制連行労働者居住地、防空壕、捕虜収容所など。
 - ⑥ 埋葬関係 陸軍墓地、海軍墓地、捕虜墓地、忠魂碑（戦死者の記念碑）など。
 - ⑦ 交通関係 軍用鉄道軌道、軍用道路など。
 - ⑧ その他 奉安殿、戦争に関わる学校、学童疎開所、二宮金次郎像、軍・労務慰安所など。
- ◎ 文献資料については敗戦直後に日本軍によって焼却処分されたものが多いが、できるだけ原資料に当って理解を深めたい。

2 慶應義塾日吉キャンパスにある戦争遺跡の特長

(1) 大学の「学び舎」が海軍の軍事施設になったこと

第一校舎・寄宿舎（浴場共）・柔剣道弓術空手及卓球道場・赤屋根食堂・体育専用室・学生文化団体（専用室）・教会堂（チャペル）などを含め5万坪のキャンパス（海軍省と貸借契約部分）。

特に、連合艦隊司令部として位置づけられた寄宿舎は谷口吉郎（文化勲章受賞者）氏の設計によるもので、日本モダニズム建築の開拓者であり東京国立近代美術館などを設計している。

(2) 海軍の中枢が慶應日吉キャンパスに来たこと

軍令部第三部・連合艦隊司令部・海軍省人事局・功績調査部・経理局・航空本部・海軍東京通信隊など。

*連合艦隊司令部は、レイテ沖海戦で事実上艦隊が壊滅すると、以後、沖縄戦など「特別攻撃隊」作戦に依拠して戦って行った。軍は兵士に桜の花が散る如く「玉碎」を求めた。45年4月25日、日吉に海軍総隊が設置されるとその下に本土決戦体制作りに入った。

*軍令部第三部は、44年になると予備士官を増員して対米情報組織を強化していくた。

43年11月3名、44年はじめ9名、44年春3名、44年7月12名増員した。44年7月現在士官34名（課長1、課員3、予備士官30）、士官以外20名、合計54名となる。45年6月はじめ、本土決戦に備えるため、59名の予備士官が配属され、対米情報課は113名の大所帯になる。7月になると、軍令部第三部（情報部）は、本土決戦配備第一陣として48名の予備士官を十一班にわけ、鎮守府および艦隊の主な司令部に配属されていった。

<第5課（対米情報課）が入手できた情報資料>

作戦部隊の報告、通信諜報、米側ラジオ放送、在外海軍武官の報告、新聞雑誌、同盟通信、捕虜、捕獲文書など。

軍令部第三部は45年7月以降第一校舎から①B地下壕に移りそこで執務する。

*軍令部第三部はキリスト教青年会のチャペルまで使った

(3) 500名の予科生が日吉から「学徒出陣」した（出陣学徒は慶應義塾全体で3000名～3300名）。しかも慶應大学では、アジア太平洋戦争敗戦までに戦没した学生や卒業生、教職員は2223人にのぼる。

1943年秋まで慶應義塾の予科生だった上原良司は、45年5月11日陸軍特攻隊員として沖縄嘉手納湾上の米海軍機動部隊に突入し戦死したが（享年22歳）、出撃前夜したためた「所感」（遺書）には、当時排撃されていた自由主義への確信、政府や軍部が選択した道が誤りであることを鋭く指摘したと思われる言葉がつづられている。

(4) 軍令部総長の特命で5000mの地下壕を築造する

日吉台地下壕の配置図を見てみよう（表紙見返しの配置図参照）

①A 連合艦隊司令部（海軍総隊司令部）地下壕 44年8月15日～11月には使用可能
第3010設営隊（兵力1500名）・第300設営隊による。

②B 軍令部第三部（情報部）・東京通信隊・航空本部地下壕…44年11月～45年5月ごろ
第3010部隊（偽装して「伊東部隊」とよんだ）による。

③ 軍令部第三部（情報部）待避壕…44年7月15日～ 第300設営隊

④ 人事局・経理局地下壕…44年11月ごろ～

海軍施設本部東京地方施設事務所編成柳瀬隊（隊長海軍技師柳瀬珠郎）が、民間建設業者鉄道工業（株）を協力作業隊として造る。内朝鮮人労働者約700人。第3010設営隊（伊東部隊）は45年8月下旬まで作業をしていたようだ。

⑤ 艦政本部地下壕…45年1月～45年8月14日

第3010設営隊（伊東部隊）によって内朝鮮人約150人の労働者も使い設営していたようだ。

3 日吉の市民を軍事態勢にとりこむ

1) 住民の戦争協力

①1931年満州事変が始まると徴兵・献金（橋樹郡約280円）・献納などで。

②国家総動員法（1938年）の下に国民生活のすべて戦争目的の一点に絞られていった。

隣組…月一回の「常会」（全員出席）、貯蓄奨励・廃品回収・消費節約、食糧や生活必需品の配給まで担当し、「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」を合言葉に耐乏生活を強いられた。金蔵寺の梵鐘や国民学校のストーブまで供出する。

家庭の女性も大日本婦人会に…出征兵士の歓送会・遺族援護など
軍隊による土地の強制収用に所有者は反対できない。軍の言うこと聞かないと「国賊」
「非国民」。

2) 学校では児童・生徒に「天皇を敬いお国のために命を奉げる教育」がおこなわれていた。

軍国主義をたたえる教育内容が多くなり、国民の思想を統一するために、天皇をあがめる教育が徹底して行われた。

国民学校初等科修身教科書『ヨイコドモ』上下の口絵に「二重橋」・「神武天皇御東行の図」を配し、児童に超国家主義的感情を与える。『ヨイコドモ』下十三「メイヂセツ」、十七「天皇陛下」、十八「キゲン節」の項目が並び、特に十九「日本ノ国」は注目される。

十九 日本ノ国

・・・前略・・・

日本ヨイ国、キヨイ国。

世界ニーツノ神ノ国。

日本ヨイ国、強イ国 『ヨイコドモ』下 (p 53-55)

陸軍大臣東条英機が陸軍部内に示達した(41年1月8日)戦場における軍人の心得「戦陣訓」が『学校教練教科書』にも掲載された。なかでも「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪穢の汚名を残す勿れ」は、兵士は勿論慶應の予科生たちをして絶望的戦況でも敵に降伏することなく死を恐れず「玉碎」を本望として軍事教練必修に応えさせた。その道は「学徒出陣」につながっていった。

3) 日吉台国民学校…学童疎開・功績調査部の接收・そして空襲

44年8月19日、3年生から6年生まで120人の児童が学区のお寺に集団疎開。9月に海軍省功績調査部が学校を接收。45年4月15日・16日の空襲で全焼。

4) 日吉地区を襲った主な空襲…1945年4月4日、4月15日～16日、5月24日 宮前地区 31軒中 25軒焼失。箕輪地区約 50 軒中 25 軒焼失。大門地区 20 軒中 18 件焼失。

慶應工学部建物の80%焼失。

空襲は凄まじかったが日吉の公式記録はない

家族4人が亡くなった農家、慶應義塾職員3人・兵士1人が死亡…日吉全体では?

日吉台国民学校には雨後の竹の子のように焼夷弾が立っていた

諏訪下遺跡(箕輪町1丁目)…3m間隔で一直線に5本の焼夷弾

諏訪下北遺跡(箕輪町1丁目)…「通信壕」と見られる土坑と10数本の焼夷弾

箕輪では24軒の家屋焼失

空襲被害の中で町会長が備蓄米を住民に配って留置場に

軍隊は慶應大学陸上競技場で焼夷弾を処理

大聖院に戦災樹木がのこる

4 日吉の丘公園周辺の戦争遺跡一(概容・時間が無ければ省略)

海軍省艦政本部

艦政本部とは、艦船の兵器などの新造計画・修理・審査・研究を主務とし、航空本部とともに日本海軍軍戦備の主要な兵器調達を掌る海軍大臣直隸中央機関の一つで、戦争末期には特攻兵器の開発整備に向けて力を傾注していった。

艦政本部地下壕をつくるにあたって、強制買収・強制移転あった (p 22~23)

地下壕の築造(艦政本部地下壕の平面図参照) (p 24)

5 本土決戦にむけた大本営の対応は

1945年5月10日、アメリカの統合参謀本部は、南九州上陸の「オリンピック作戦」、関東上陸の「コロネット作戦」を実施することを正式に承認し、同25日には作戦開始時期をオリンピック作戦11月1日、コロネット作戦1946年3月1日(暫定)と決定した。

日本では、45年3月17日硫黄島守備隊が全滅し、沖縄では米軍と死闘を繰り広げていた。大本営は、6月8日に御前会議をもって「今後採るべき戦争指導の大綱」が決定され、本土決戦方針があらためて確認された。このとき豊田副武軍令部総長は、敵は九州・四国方面に7・8月ごろ、関東方面には初秋以降と判断し、「作戦実施に当たりましては全軍特攻精神に徹し皇國護持に邁進し得る如く鋭意作戦準備へ努めつつあります」と述べている。そして米軍を洋上に撃滅するため、航空特攻として特攻機約8400機の投入を計画し、水上特攻として小型モーターボートに爆薬を積載した海軍の「震洋」、陸軍の特攻艇および水中特攻として特殊潜航艇「蛟龍」・有翼小型潜行艇「海龍」・人間魚雷「回天」等が多数配備された。

この間、国民義勇隊等が組織され、国民総武装化の態勢が整えられていったのである。

6 日吉の戦争遺跡を歩くために（ガイドの心得）

ガイド人は、案内するにあたって安全第一に心がけ、見学者に対し平和の語り部としての想いを正しく優しく語る努力をしましょう。

そのために

- ①日吉の戦争遺跡の内容と特長をよく理解しておくこと。
- ②その特長は歴史的事実に支えられているものであること。
- ③ガイドするにあたって、話す内容をメモに整理し与えられた時間内に話せるようにしましょう。
- ④戦争遺跡には地下壕など暗いところもあれば危険な場所もあるので、ガイド人は、率先して帽子をかぶり、安全な足ごしらえで歩くよう心がけることにしましょう。懐中電灯は必携（明るいものが良い）。さほど荷物にならないので、ガイドブック・メジャー・方位磁石・メモ・カメラなどカバンに入れておくと役に立ちます。（本会では、ガイド人にも保険をかけていますが、見学者が怪我をしたときを考え若干の薬品を用意しています）
- ⑤見学者から質問があって応えられなかった時は、憶測で応えないで後で調べて電話してあげると良いと思います。
- ⑥見学会が終わったら、お茶でも飲みながら気軽に意見交換できるといいですね。自分の案内はこれでよかったです、相手にどこまで話しを理解して聞いてもらえたか勉強になります。

養成講座参加者一言

○「日吉の戦争遺跡が市民に伝えるものは」は何か？

山田淑子

1. 戦争遺跡の事実を伝えること

日吉の慶應大学キャンパス内に連合艦隊司令部となった地下壕が作られ、現在も保存され、ここに存在するという事実。このことを知った時は大きな驚きであり、是非見学会に参加し、どのようなものかをこの目で確かめておかなくてはならないと思った。この身近な戦争遺跡を15年戦争を体験したことのない私がどう受け止め私の思っていた戦争がどのように変化していくのか、そのためにはまず戦争遺跡そのものを事実として確認したかった。ガイドをするということの一番目は、私の感じたようにまずその現存する遺跡そのものの事実を伝えることにあると考える。

2. 戦争体験のない者が戦争を如何に伝えるかということ

敗戦後、65年以上が経過した現在、戦争体験者は年々減少し、言葉あるいは語りにおいて



戦争のそのものを伝えていくことは不可能になってくる。しかしながら構造物として残されている戦争遺跡は戦争体験者がたとえ皆無となったとしてもそこに存在しうるものである。そこで、戦争遺跡から戦争を語り継ぐ方法に変わらざるをえないと思う。ガイドは遺跡から戦争の現実、戦場の現実を掘り起こし、遺跡を通して戦争を追体験してもらい、バーチャルゲームと化してしまった戦争しか想像できない人たちに対して、本当の戦争に対する想像力を体得してもらうことが、重要であると考える。

3. 現在の社会と遺跡(保存も含め)との関係を如何に伝えるかということ

私たちが平和に生きていくために、戦争の事実をしっかりと受け止めるために戦争遺跡は重要な役割を果たし、現在社会にその存在意義を示していると考えられる。ガイドは見学者に遺跡を見て感じてもらうだけではなく、見学者との質疑等による交流で、見学者の平和への問題意識を鮮明にすることも必要であると考える。なお、できれば見学者にも遺跡の保存について投げかけてみてもよいのではないか。

○戦争遺跡が市民に伝えるものについて

水谷大二郎

「百見は一聞に如かず」はカセットテープ・レコード盤に対して当て嵌まる言葉であるが、俗に巷に聞かれる「百聞は一見に如かず」は正しく本日のまとめに相応しいものと考えられる。しかし、これを更に効果的に窮屈を追求する為には、先ずガイドの為の原稿をよりレベルアップする必要があろう。この点については浅学の小生には荷が重いので賢明なる諸兄姉にお任せすることとし、他の側面的な立場から若干の所感を述べてみたい。

I. 正しい伝達

どんなに素晴らしい説明原稿があっても、言葉が不明瞭であっては、充分な成果は上げ得られない。嘗て、NHKが調査した資料によると、ニュースを聞いた後脳裡に残っている記憶は約30%と云われている。プロのアナウンスでこの数値であることは、我々の日頃の練習の中で必要に応じては、放送部、演劇部等で練習している滑舌(所謂口の体操)を試みるのも一法。また、アクセント・イントネーション・ボリューム等を考慮し、更には原稿内に活字言葉があれば隨時話し言葉に差し替えることも必要になろう。

II. 自己の経歴・経験等の関連

熟年の諸兄姉の中には直接戦争に関わる体験をお持ちになる方もおられることと思う。小生の場合、昭和15年4月より終戦を挿んで昭和24年3月まで慶應義塾で学び、また勤務したこと。また、その間男子就業禁止令による徴兵令を受けたこと、徴兵検査の結果現役兵証書を下付されたこと、また、野球に関わることとして最も心に残るものとしては、学徒出陣が決定した時の選手たちのアトモスフェア、最後の早慶戦等々を踏まえて望みたい。

III. 「銃後の守り」の意味するもの

「進め一億火の玉だ」これは大政翼賛会が母体となって作られた標語であり、直接戦闘に加わらない一般国民すべてが含まれるが、とりわけ自営業・家内工業主達の隠れた取り組みの発掘。

IV. 高齢見学者対策

特に聴覚の衰えについては、ただ単に聞こえ方が自然に鈍るだけではなく、コルティ器のそれぞれの部分的障害により症状は様々である。従って前述のI.について特に意識する必要があろう。また、周囲の騒音についても考慮したい。また、視力については眼鏡で矯正出来ないものに虹彩の調節がある。地下壕の入口(しばらく傾斜が強い個所)付近はゆっくり進む必要があろう。

以上述べたことは、地下壕見学会開始以来ガイド役を担当された先輩諸兄姉にとって、十分御承知の事柄が多いことと思いましたが、我々これから新米のガイド候補者に些少なりとも参考になればと思い、先輩の方々に対し失礼も顧みず思いつくままに記しました。また、このことはあくまでも心のうちに留めたうえで(自分の姿勢を正すまでの活用)活動されますように。また、見学者の年齢・認識度等に合わせて、語りかけかた・内容等は臨機応変になさることは当然のことと思います。

明治大学平和教育登戸研究所資料館が開館

予ねて多くの研究者・戦跡保存団体・地域の市民から望まれていた明治大学平和教育登戸研究所資料館が関係者の努力によって開館の運びとなりました。2010年3月29日、午前11時から明治大学生田キャンパスで開館記念式典が行われ、式典には大学関係者や市民など約100名が出席しました。テープカットのあと、納谷廣美明治大学学長から「過去の戦争の過ちを忘れずに歩んでいくことを宣言し、平和教育を展開していく」と力強い挨拶がありました。次いで長堀守弘明治大学理事長が挨拶、来賓の祝辞などがあり、資料館建設に貢献のあった渡辺賢二明治大学文学部兼任講師に同大学から感謝状贈呈。出席者の資料館見学・懇親会があり開館記念式典は午後1時半に終了しました。



資料館前でテープカット



風船爆弾模型が展示されている第二展示室
を創造すべく一層努力されることを期待するところです。

当日、地元の旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会も出席し、姫田光義代表が祝辞を述べました。その中で「大学が保存を決めたのは最大の成果」と評価しながらも、偽札工場だった木造建物も併せて保存してほしかったむねを紹介していました。たしかに明治大学が資料館設立の目的に「歴史教育・平和教育・科学教育の発信地にするとともに、地域社会との連携の場としていくことを目指しています」と掲げているところからも、明治大学は、これからもしっかりと地域社会と連携して教育の展望を見出し資料館の発展

開館記念式典には、松代大本營の保存をすすめる会、東京大空襲・戦災資料センター、そして日吉台地下壕保存の会からも5名がお祝いに出席しました。

資料館は5つの展示室などからなり、第一展示室は登戸研究所の活動の全体像と歴史。第二展示室には風船爆弾や電波兵器など第1科の活動内容。第三展示室は生物化学兵器やスパイ用品などを開発していた第2科の活動内容。第四展示室は主に中国大陸で展開された経済謀略活動のために偽札を製造していた第3科の活動内容。第五展示室は本土決戦体制下の登戸研究所と所員の戦後などについて展示されています。

明治大学平和教育登戸資料館は、全国で唯一戦争遺跡を活用した明治大学の素晴らしい資料館です。大学生・市民はもちろん、小・中・高校生の皆さんも是非この資料館を訪れ、戦争の本質に迫る多くの学んでほしいものです。

開館は水曜～土曜の午前10時～午後4時。入館無料。

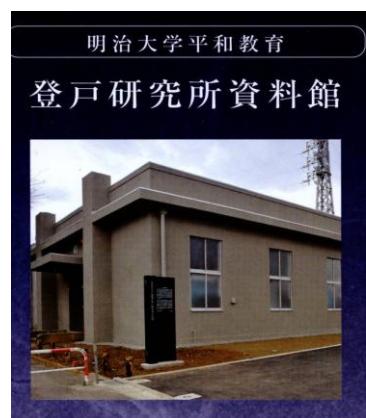
問合せや10人以上の団体見学の予約は 044-934-7993 へ

所在地 〒214-8571 川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス36号棟内

キャンパスへのアクセス

小田急線「生田駅」(準急・各駅停車) 下車南口徒歩約10分



新装成った資料館

企画

慶應義塾三田キャンパス歴史散策

2009年10月17日

慶應義塾福沢研究センター都倉武之

■ 慶應義塾の創立者：福澤諭吉 1835-1901

- ・在野の啓蒙思想家・教育者
- ・『学問のすゝめ』→「実学」（サイエンス：実証的・合理的学問）を鼓吹
- ・「一身独立して一国独立す」「独立自尊」
- ・門閥や身分を嫌い、平等でざくばらんな交際を育む社会 → 文明の進歩



幕末の福澤諭吉

■ 慶應義塾 1858 (安政5) 年創立

- ・「私立」することを発見した学校
- ・独自の結社原理「僕は学校の先生にあらず生徒は僕の門人にあらず」→「義塾」
- ・日本最古の近代的教育機関、近代的私立総合大学
- ・日本で最初に認可された私立旧制大学の一つ ←日本における官学偏重

<略年表>

1858	江戸築地鉄砲洲の中津藩中屋敷で家塾として開塾
1868	芝新銭座に移転し藩から独立 「慶應義塾」命名
1871	三田の旧島原藩中屋敷に移転 「文部省は竹橋にあり文部卿は三田にあり」「洋学の一手販売」 文部行政の保守化・儒教教育の復活 →私学冷遇へ …徴兵令、大学令
1874	初等教育機関である幼稚舎（当初「和田塾」）を開設
1890	日本初の私立総合大学として大学部発足（文・法律・理財科）
1917	三田に医学科開設
1920	大学令による大学（旧制）となる 信濃町 キャンパス開設
1923	関東大震災で校舎を被災
1934	日吉キャンパス開設
1939	日吉に藤原工業大学開設（1944 工学部になる）
1945	各キャンパス、空襲により被災 日吉米軍により接収される（1949 解除）
1949	新制大学発足
1957	商学部開設
1958	創立100年記念式典を日吉で挙行
1990	湘南藤沢キャンパス開設、総合政策・環境情報学部設置
2001	看護医療学部設置
2008	共立薬科大を合併し薬学部開設



大講堂内部(大正期)

→三田は慶應義塾が「私立」するあり方を模索し続けてきた原点の地

□ 演説館

- ・1875（明治8）年竣工 重要文化財
- ・日本における演説創始の建物、福澤生前から伝わる唯一の建物（場所は移転）
- ・多事争論 …身分や立場を越えざくばらんに世上を論じて高めあう
～『民情一新』の二大政党制論

- ・speech=演説 debate=討論 可決・否決

□ 万来舎／ノグチ・ルーム

- ・元は福沢時代の談話室的交流スペースの名称
- ・1951(昭和26)年竣工の旧第2研究室の一部を移築保存
- ・谷口吉郎とイサム・ノグチのコラボレーションによる独特のモダニズム建築
- ・ノグチの父は福沢門下の詩人・野口米次郎(ヨネ・ノグチ)

□ 大銀杏

- ・旧藩邸時代から残る巨木の一つ
- ・今はなき大講堂前のメインストリートにそびえたシンボル的存在
- ・カレッジソング「丘の上」
- ・佐藤春夫「酒、歌、煙草、また女」
- … ひともと銀杏葉は枯れて 若き二十のころなれや
庭を埋めて散りしけば 六年(むとせ)がほどはかよひしも
冬の試験も近づきぬ 酒、歌、煙草、また女
一句も解けずフランス語 外に学びしこともなし …

□ 第一校舎

- ・1937(昭和12)年竣工 曾祢中条建築事務所設計

□ 塾監局

- ・1926(大正15)年竣工 曾祢中条建築事務所設計
- ・義塾の法人本部 三田移転当初からの名称
- ・旧塾監局(煉瓦講堂)と演説館の旧位置



三田を後にする出陣塾生

□ 図書館旧館

- ・1912(明治45)年竣工 曾祢中条建築事務所の代表作
- ・重要文化財 ネオ・ゴシック様式 義塾創立50年記念
- ・大時計～「時は過ぎゆく」
- ・関東大震災で損傷・修復
- ・米軍の空襲で本館部分は焼失～外壁の痕跡
- ・手古奈像(北村四海作)

□ 大ステンドグラス

- ・1915(大正4)年完成 和田英作原画、小川三知制作(戦災で焼失)
- ・1974(昭和49)年修復 大竹龍蔵制作
- ・文明と封建の出会いを描く 「ペンは剣よりも強し」

□ 展示室

- ・福沢諭吉の遺品 …質素で合理的な精神 白杖 乳母車
- ・三田の土地関係資料 戦災、日吉接收に関する資料を準備(今日のみ)

□ 文学の丘

- ・吉野秀雄歌碑～「図書館の前に沈丁咲くころは恋も試験も苦しかりき」
- ・久保田万太郎句碑～「しぐるゝや大講堂の赤れんが」
- ・佐藤春夫詩碑～「さまよひ来れば秋草の一つ残りて咲きにけり…」
- ・小山内薰胸像

□ 福沢諭吉終焉の地

- ・福沢邸の跡地 明治34年2月3日福沢ここに没す 碑文は高橋誠一郎
- ・旧制四学校記念碑 適塾蘭

□ 幻の門

- ・東館の場所にあった旧島原藩邸時代の表門を継承した義塾の旧正門
- ・門柱は1913(大正2)年築

- ・堀口大学作詞「幻の門」(1933^{昭和8}年) 馬留め石
- ・出陣塾生はここから母校を後にする

□ 平和来

- ・1957(昭和32)年建立 朝倉文夫作
- ・義塾関係の戦没者慰靈
- ・碑文は元塾長小泉信三

□ 還らざる学友の碑

- ・1998(平成10)年建立 碑文は元塾長鳥居泰彦

お知らせ

☆安島太佳由写真展

戦争遺跡の写真を撮り続けている安島太佳由氏が「若い世代に語り継ぐ戦争の記憶」プロジェクトの一環として2つの写真展を開催します。4月に開くのは太平洋の島々に残る主に日本軍が残した戦争の跡を撮ったものです。5月には日吉台地下壕保存の会と深い関係のある上原良司の写真展です。ぜひお運びくださいますようご案内します。

(1) 「時代暝り～太平洋戦争激戦の島々」

日時 2010年4月14日(水)～28日(火)

10時～19時

会場 銀座ニコンサロン

(銀座7-10-1 03-5537-1469)

入場無料

(2) 「上原良司と特攻隊」

日時 2010年5月13日(木)～26日(水)

日・祝日休館 10時～18時

会場 アイデムフォトギャラリー「シリウス」

(新宿1-4-10 03-3350-1121)

入場無料 講演会とダンスパフォーマンスがあり、
詳細はチラシをご覧下さい。



☆ドキュメンタリー映画『フェンス』(藤原敏史監督) 上映会



慶應義塾大学日吉映像フォーラムより

『フェンス』

米海軍池子家族住宅を取り囲むフェンスそのものを執拗に撮り続けていくことによって、その存在の物質性を強く印象づけると共に、そこに生きる人々の記憶の諸相を丁寧に記録することによって、フェンスの横断する森の生命力に比するものを人々の語りのなかから紡ぎしていく、詩的なドキュメンタリー作品。

藤原敏史

横浜生まれ、東京とパリで育ち、早稲田大学文学部、南カリフォルニア大学映画テレヴィジョン学部で映画史、映画製作を学ぶ。1994年から映画批評を執筆。共編著に『社会派シネマの戦い方』、『アモス・ギタイ イスラエル／映像／ディ・アスボラ』(ともにフィルムアート社)。訳書に『市民ケーン』、すべて真実』『バスター・キートン自伝』(ともに筑摩書房)など。2002年、ドキュメンタリー『Independence: around the film Kedma a film by Amos Gitai』で監督デビュー。

『映画は生きものの記録である 土本典昭の仕事』(2006-2007)、『フェンス』(2008)と、独創的なドキュメンタリー演出を続ける一方で、大胆な即興演出を駆使した初の劇映画『ぼくらはもう帰れない』を2008年ベルリン国際映画祭フォーラム部門で上映、世界的な注目を集めました。

日時 2010年7月3日(土)

13時～16時

(上映時間は約3時間)

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス
来往舎シンポジウムスペース

入場無料 事前予約不要

米海軍池子家族住宅を取り囲むフェンスの周辺に生きる人びとへのインタビューを中心とする映画です。

訃報

当会運営委員の高橋保二さんが2月2日に逝去されました。ガイド養成講座終了後案内人のひとりとして活躍し、特に小中学生の案内には、いつも楽しそうに説明をしていました。心よりご冥福をお祈りいたします。

☆活動の記録

(2010年1月～3月)

- 1/26 運営委員会 会報95号発送(慶應高校物理教室)
 1/27 地下壕見学会 かわさき市民アカデミー 40名
 2/6 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 (地下壕見学・来往舎大会議室) 14名
 2/9 地下壕見学会 下田町自治会 56名
 2/11 地下壕ガイド学習会(菊名フラット)
 2/23 運営委員会(慶應高校物理教室)
 2/25 地下壕見学会 23名
 2/27 定例見学会 36名
 3/1 地下壕見学会 田園調布学園 高校3年生・保護者・先生 55名
 3/17 地下壕見学会 川崎市教育文化会館 16名
 平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校教育研究所)
 3/20 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座(来往舎中会議室)
 3/22 地下壕ガイド学習会(菊名フラット)
 3/27 定例見学会 47名
 3/29 「明治大学平和教育登戸研究所資料館」開館記念式典に出席 新井副会長他
 地下壕見学会 松代大本營の保存をすすめる会 4名
 3/31 地下壕見学会 文化資源学会 37名
 冊子「戦争遺跡を歩く 日吉」改定増刷5000部(見学資料用)
- 予定
 4/12 運営委員会 会報96号発送(慶應高校物理教室)



☆☆定例見学会(第4土曜日 13:00～)

4/24(締切りました)・5/22・6/12(6月は第2土曜日に実施)

7、8月は土曜日以外に夏休み見学会実施の予定

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで **TEL 045-562-0443** (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計)亀岡敦子:〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他)喜田美登里:横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス:<http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会